

郷土研究講座「石仏・石神からわかること」

下記の郷土研究講座が開催されたので報告する。

題 目 郷土研究講座「石仏・石神からわかること」

講 師 平塚市博物館 浜野 達也 学芸員

小田原市郷土文化館 保坂 匠

民俗担当学芸員（企画・司会・進行）

日 時 平成29年5月20日

10:00～11:30

場 所 小田原市郷土文化館会議室

参加者 一般者30名（満席）

参加料 無料



講師 平塚市博物館浜野達也学芸員

まえがき

石仏や石神などの石造物を調べることで、かつての地域の信仰や生活を垣間見ることができるとの考えがある。

石造物そのものの理解のために一般的な説明をうけた。

さらに平塚市の石造物調査から得た経験と調査結果（3058基）および「小田原の野佛たち（小田原教育委員会 昭和61年発行）」にて公表している小田原市の石造物（791基）との比較した検討結果の説明があった。

また、昭和56年からの平塚市の活動及び最近の「石仏を調べる会」の活動概要の説明があり、その目録「平塚の石仏1～16」及び「平塚の石仏1～10（改定版）」の紹介があった。さらに、年一度の特別展示には「石仏を調べる会」の協力を得て展示物の準備や説明を実施しているとのこと。

加えて、小田原市郷土文化館からも6月1日の公報にて石造物調査の活動を公表する旨の説明があった。

国内に日本石仏協会があり、石造物に関する取り纏めを行っている。

本日の郷土研究講座で、石造物についての知識を得ることができた。

細部説明事項

1. 石造物の特性

- ・ 石造物とは、石仏、石神、石塔、石碑、その他（鳥居、灯籠、手水石）などがある。
- ・ 「なぜ石か？」についての説明
 - * 入手しやすい素材であり、庶民が造立に深く関わることができた。
 - * 屋外に設置でき、野晒しで風雨にさらされても、いつでも拝める。
 - * 石であることが磐座（いわくら）、岩座、神体石としての信仰の対象となった。
 - * 後世へ永く残すことができた。

- 代表的な石造物

地蔵、道祖神、庚申塔、馬頭観音、聖観音、如意輪観音 などあり、下記の写真に概ねの姿形と彫まれるものを示す。



写真1 地蔵

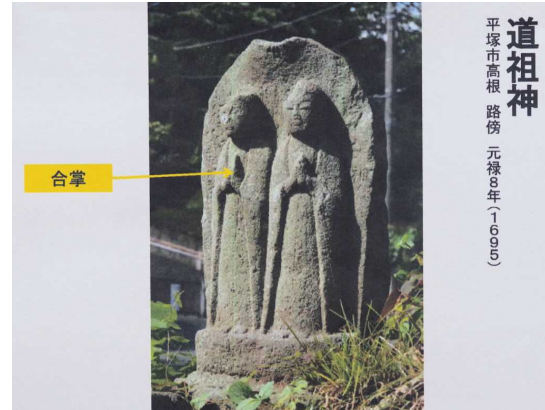


写真2 道祖神

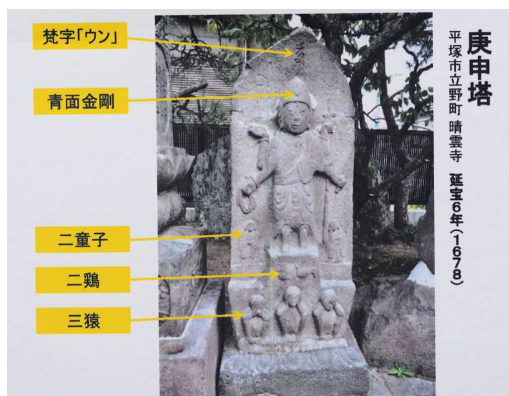


写真3 庚申塔



写真4 馬頭観音



写真5 聖観音



写真6 如意輪観音

2. 石造物の調査方法と調べてわかること

(1) 石造物の調査方法

- ・ 銘文を5 W 1 Hで整理する。
- ・ 敬う気持で鑑賞し、石造物をスケッチしたり写真撮影した上で、種類判別し、刻まれている文字や模様を読み取り記録する。
- ・ 住民等に伝承・行事の関連などを聞き取りを行い調査する。
- ・ 併せて文献や伝承の調査を行う。

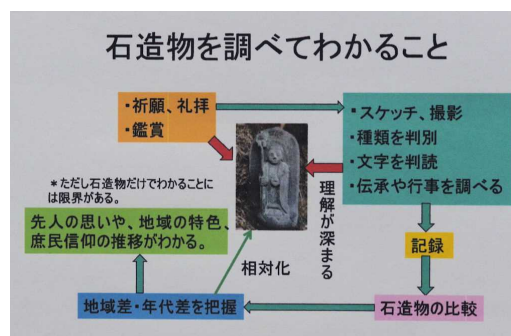


写真7 石造物の調査概念図

(2) 調査を纏め、考察する。

- ・ 石造物を比較し、種類を判別・区分する。
- ・ 地域差・年代推定を把握する。
- ・ 先人の思い、地域の特徴、庶民の信仰とその推移を考察する。

3. 石仏と石神の種類

平塚市の長期にわたる調査結果と小田原市の「小田原の野佛たち」からの代表的な石造物を集計すると下記の通りとなり、地域により造られた石造物の状況・姿形は異なる。

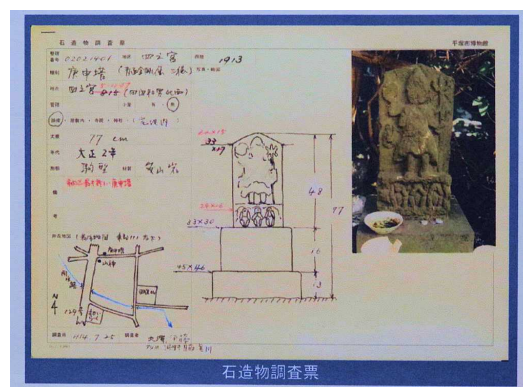


写真8 調査票の事例

- ・ 種類別石造物数

表1 平塚市 全3058基の概要

種別	基数	割合%
地藏	314	14
道祖神	275	9
灯籠	200	6
庚申塔	179	6
馬頭観音	171	6
観音	151	5
手水石	126	4
奉納塔	102	3
石祠	101	3
寺号塔	97	3

表2 小田原市 全791基の概要

種別	基数	割合%
道祖神	291	37
馬頭観音	124	16
庚申塔	48	6
寒念仏供養塔	42	5
題目塔	32	4
地神塔	22	3
地藏	20	3
巡拝塔	18	2
万霊塔	14	2
富士講碑	14	2

- ・ 平塚市と小田原市の比較から言える事柄

- * 小田原市は、馬頭観音、寒念仏供養塔（平塚市は6基）が多い。
- * 小田原市は、富士講碑（平塚市は17基）がやや多い。
- * 小田原市は、地藏と観音（6基）が少ない。

4. 石造物を建立年代順に並べるとわかること

(1) 建立年代がわかる石造物の建立状況は時代により変化している。その様子を取り纏めると下図のように変化しており、地域の差もうかがえるが似かよっている部分もある。



図1 年代別石造物建立数

(2) 建立年代傾向から見えること

- ・ 石造物建立の活況期は、世の中が安定し、経済的にも比較的恵まれた時期にある。
- ・ 衰退期は、天災、明治維新、戦中戦後など社会の動乱期や生活苦の時期にある。
- ・ 経済的にも精神的にもある程度のゆとりがないと、石造物の建立には至らない。

(3) 宝永年間の衰退期の背景

1700年頃には建立数が減少しているが、下記のように地震、天災及びその対処にて、石造物の建立の衰退・増加に影響をあたえたことが伺える。

- ・ 元禄16年(1703)11月、元禄地震発生し家屋倒壊、金目川の河床が隆起し洪水が頻発した。
- ・ 宝永3年(1706)、金目川の筋替工事を実施。
- ・ 宝永4年(1707)11月、富士山噴火による降砂が30cm弱堆積。降砂が川へ流入し、家屋への浸水があった。
- ・ 宝永5年(1708)、入野村では鈴川沿いの集落が村の西方へ移転した。また、長持村でも集落が村の西方へ移転した。
- ・ 宝永7年(1710)、花水川を直線化する工事が完成したことで建立の兆しあり。

5. 建立年代による庚申塔の変化

庚申塔は時代により下記のような違いが見られる。

- ・ 庚申塔は青面金剛が刻まれるが、青面金剛自体が彫刻されないことがあり、青面金剛の手が2本、4本や6本となる時代がある。また、童子の有無がある。
- ・ 青面金剛の周りに刻まれる猿の数が1体、2体及び3体と変化がある。
- ・ さらに、青面金剛が刻まれず文字塔となり、道標が刻まれることがある。

6. 道祖神の地域性

(1) 道祖神の姿形の多様性については、下記の事柄が推測される。

- ・ 日本の神は元々、形はなく、神のより代として樹木や石などが信仰された。
- ・ 仏像の影響で神像がつけられた。
- ・ 仏像のように経典に則った形はない。
- ・ 石仏に比べて石神は文字碑が多くなる傾向がある。

(2) 道祖神の姿形には次のような違いがある。

- ・ 双体像、単体像、単座像の併設、五輪石のみのもの、石祠や木祠のものや稲荷型と多様である。庶民が道祖神として祀れば、形にかかわらず道祖神である。

7. 石仏の伝承と行事

(1) 道祖神の種類での伝播に特徴が見られる。(図2参照)

- ・ 単座像は伊豆方面から伝播されたことが推測される。
- ・ 双体像は神奈川県北部から伝わり東部に伝えられた。
- ・ 石祠、木祠、稲荷型は双体像、単座像の間を埋めるように建立された。



(2) 石仏の行事

図2 小田原市の道祖神分布

- ・ 道祖神は、普段は集落の出入口にあたる道路交差点等の路傍にて祀られる。
- ・ 子供の神、子授けの神ともされ、セートバライやドンドヤキと呼ばれる小正月の火祭りでの祭神となる。

8. 石造物調査からわかること

(1) 石造物調査からわかる事柄と具体的な事例を下記に示す。(図3、写真9参照)

- ・ 過去に存在していた信仰の証になる。
- ・ 石造物の施主や建立目的を知ることができる。
- ・ 建立年代による石造物の推移を把握できる。
- ・ 地域の民間信仰や石造物の特色が捉えられ、地域性が把握される。
- ・ 建立時代と地域分布を重ね合わせれば、石造物の伝播を推察できる。
- ・ 石造物の編年を作成することも可能となろう。

サエノカミやセーノカミと呼ばれる。
主に双体像や単体像、神名が彫られた石造物を神体とし、五輪塔や宝篋印塔の残片とともに祀られている。

疫病除けや悪魔除けの神とされ、集落の出入口に当たる道路の交点に置かれていることが多い。子供の神、子授けの神ともされ、セートバライやドンドヤキと呼ばれる小正月の火祭りの祭神である。

図3 平塚の道祖神とはー信仰の証の例

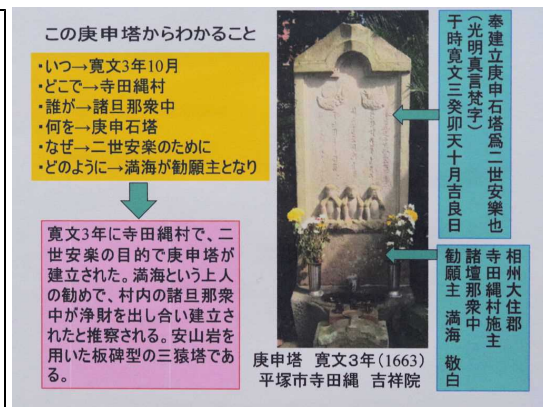


写真9 施主や建立目的を示す例

(2) 小田原市の石造物でわかったこと

- ・ 道祖神の建立数が多く、形も多様である。
- ・ 道祖神の分布は、相模型双体像と伊豆型単座像の境界領域に稲荷型道祖神が分布している。
- ・ 馬頭観音、寒念仏供養塔、地神塔、唯念名号塔が多い

9. 平塚市博物館石仏を調べる会の活動

- ・ 昭和56年に平塚市の活動が開始され、目録「平塚の石仏1～16」を発行した。
- ・ 新たに「石仏を調べる会」を発足させ毎月1度のグループでの調査活動を実施し、目録「平塚の石仏1～10(改訂版)」を発行している。
- ・ 年一度の特別展示には「石仏を調べる会」の協力を得て特別展示会を設け、展示の解説も分担してもらっている。
- ・ 石仏見学会の実施や「平塚の石仏を語る会」なども開催している。



写真10 石仏を調べる会



写真11 特別展示会会場風景

1 0 質疑応答

Q 1 地蔵と道祖神の違いは？

A 1 地蔵は仏教信仰の仏像から生まれた石仏で、道祖神は民間信仰の神で道路の交点など路傍に建て村の内外を分けてくれる神様。

Q 2 「セイトー（祓い）」という言葉があるが、その意味合いと当てる漢字は？

A 2 外からの災いを防ぐ塞の神（境の神、幸の神などとも書く。）と書くのが良いであろう。そして悪いものを燃して幸せを掴もうと言うことである。

Q 3 庚申塔の建立日と建てる想いは何か？

A 3 庚申年での建立は多い傾向があるが、庚申年の巡りはなにせ60年かかり、庚申年まで建立が待てない。しかし建立の年月日は庚申の日であることが多いようである。

建立の理由はかならずしも決まっていない。三年間の信仰で身中の三尸が退治された証しで建てたとの事例がある。

1 1 参考文献

(1) 郷土研究講座「石仏・石神からわかること」平塚市博物館 浜野 達也 学芸員

(2) 小田原市文化財調査報告書 第二十集

「小田原の野佛たち（小田原教育委員会 昭和61年3月31日発行）」

あとがき

平塚市の3058基に及ぶ石造物調査結果は貴重な資料であり、その調査にて得がたい経験をなしたことであろう。

しかし、小田原市が石造物の調査に乗り出すときには、平塚市の調査手法を活用しながら、日本石仏協会が創っているであろう体系に則り普遍性のある調査が行うのが望ましい。

今回の郷土研究講座に参加して、定員満杯となるほど石造物に関心を抱く人々がいる現実にかんがみ、わが身に振り返ってみると、路傍の石造物に接し、敬うことはほとんどなかったが改めたいもの。また、信仰として子孫に伝えることの必要性が認識された。

偶然見かけたことだが、地元の女子中学生がある道祖神の前を通るとき、自然と手を合わせていた。この様な成人や子供達が増えることが理想であろう。

しかし、周囲の石造物は道路行政のあおりを受け、神社等の片隅に追いやられており、しかもこれらの石造物は歴史的な背景さえ揭示することなく放置されているのが現状である。調査の結果、地元に戻せる石造物は元に戻し、地域住民との接触の機会を増し、民間信仰の盛り上げと地域の観光資源とするなどの施策が必要であろう。

以上（報告 森 啓次）